

日本新生児成育医学会 2024年度 第4回理事会 議事録

日時：2024年10月15日（火）18：00～20：00

形式：Web会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、諫山哲哉、落合正行、影山 操、日下 隆、河野由美、東海林宏道、長 和俊、徳久琢也、中西秀彦、難波文彦、飛弾麻里子、細野茂春、水野克己、森岡一朗、芳本誠司（各理事）
中村友彦、与田仁志（各監事）、荒堀仁美、山田恭聖（各幹事）

欠席者：佐藤義朗、長谷川久弥、廣間武彦、和田和子（各理事）
北東 功（幹事）

（敬称略）

議 事：

議事に先立ち、高橋理事長より定款41条に則り、出席者が開催可能人数に達しており、理事会が成立する旨説明があった。

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは3件（うち1件は本日の理事会で審議）、その他のお知らせなどは4件であった。

2) 2024年度会計報告の件

2024年度の年会費は、全会員2,725名中、名誉・功労会員137名を除く2,588名のうち、延べ2,498名（96.5%）（9月30日現在）より納入され、代議員費を合わせて31,903,637円の会費納入となった。

3) 小児医学研究振興財団より名義後援依頼の件

小児医学研究振興財団より令和6年度web市民公開講座「子どもの感染症と予防接種」の名義後援依頼があり、これまでも後援していたため承諾した。

4) 第128回日本小児科学会学術集会教育講演プログラム案の件

本学会より3件の提案をしたが、不採用となった。

5) 神奈川県小児保健協会のFacebookへ「被災地の避難所等で生活する赤ちゃんのためのQ & A」掲載の件

神奈川県小児保健協会よりFacebookへ「被災地の避難所等で生活する赤ちゃんのためのQ & A」の掲載依頼があり、承諾した。

6) 米国小児科学会2025年度学術集会における発表者推薦の件

日本小児科学会より案内のあった米国小児科学会関連学会2025若手研究者推薦発表に、本学会から難波理事より推薦のあった西口 亮先生（国立病院機構長崎医療センター）を推薦したところ、選出された。

2025年4月24日～28日にアメリカのハワイ州で開催が予定されている。

7) NHK報道局取材センター社会部より取材依頼の件

医師の働き方改革や分娩施設の減少に伴い、高度な医療を提供する「総合周産期母子医療センター」にも業務の逼迫やしわ寄せなどの影響が出始めているのではないかと考えられていた。これに際し、全国の総合周産期母子医療センターに対して①NICU病床利用率、②救急搬送の受け入れを断ったことがあるか、を調査したいと考え、調査にあたり意見を伺いたい、と依頼があり取材を受けた。NICUよりも産科クリニックが関心事のようだったため、日本周産期・新生児医学会を紹介した。

8) エーザイ株式会社よりチョコラA（錠／滴／末）、ケイツーシロップ、ケイツーN静注の継続提供要望書提出依頼の件

エーザイ株式会社よりチョコラA（錠／滴／末）、ケイツーシロップ、ケイツーN静注の継続提供の要望書

を本学会より厚生労働省に提出して欲しいと依頼があり、9月24日付で提出した。

9) 委員会活動における備品購入の件

新生児シミュレーショントレーニング普及推進WGが開催した「第2回Nsimセミナー」において、備品の購入があった。本学会で精算する備品に関しては、学会が購入したこととなるため、事務局管理となる。委員会、WGの活動にかかるに購入品に関しては事前に報告するようWG長も含め留意してほしい。

10) 学術集会優秀演題賞の件

第68回学術集会大会長の中村先生と協議し、10演題を選出した。社員総会の表彰式で表彰状を授与する。また2024年度第3回理事会で報告していた「記念品」の贈呈はなしとすることとした。優秀演題賞の選出は理事長、学術集会大会長が担当しているが、理事長が大会長を兼ねている年は、副理事長が選考に加わることにする。

【受賞者】

演題番号43 永藤元道（筑波大学附属病院小児科）

「未熟児動脈管開存症と血清プロスタグランジンE2代謝産物濃度動態の関連」

演題番号82 長谷部匡毅（長野県立こども病院）

「新生児慢性肺疾患に対する在宅酸素療法の実態調査—家族へのアンケート調査—」

演題番号117 澤田真理子（倉敷中央病院小児科）

「低酸素性虚血性脳症の新生児に対する臍帯血幹細胞療法の長期予後」

演題番号118 川瀬恒哉（名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野）

「神経幹細胞の維持における出生の意義」

演題番号183 設楽佳彦（東京大学医学部附属病院小児科）

「胎便に含まれるヒト由来タンパク質の網羅的解析」

演題番号216 三谷真優（名古屋大学心の発達支援研究実践センター）

「超早産児の社会性の発達—2歳児を対象とした社会的注意の特徴—」

演題番号252 祝原賢幸（大阪母子医療センター）

「新生児集中治療室における重症新生児の診療実態についての調査結果（その2）～慢性期にNICUを退室することが困難な程度の医療を継続している新生児について～」

演題番号269 屋良朝太郎（鹿児島市立病院新生児内科）

「ビデオ通信を用いたメディカルコントロールを行うことで救命できた、救急車内出生の重症新生児仮死の1例」

演題番号289 中井洗我（徳島大学医学部医学科）

「赤ちゃんの泣き声をAI技術で解析し、感情の推定と対処法を提案する独自のアプリ開発」

演題番号298 福井加奈（国立成育医療研究センター新生児科）

「ナショナルデータベースを用いた18トリソミーにおける手術歴と死亡の関連についての検討」

11) 仁志田博司賞選出の件

仁志田博司賞に5件の応募があり、理事長、学術集会大会長、ご家族代表、仁志田学校同窓会長の4名で選考した結果、「赤ちゃんのご家族の“あたたかい心”を育む日本ディベロップメンタルケア（DC）研究会の活動」に決定した。社員総会で賞状と賞金を授与する。

今年度、落選した応募内容については次年度以降の再応募を受付することとした。

12) 社員総会開催の件

社員総会は学術集会2日目の11月9日（土）16:00～ホテルブエナビスタ第1会場で開催する。本日の理事会終了後、先生方にPowerPointデータをお送りするので各委員会の1年間の総括の提出と、同時に社員総会の出欠をとるため、回答をお願いしたい。

13) 小児医学川野賞の件

9月20日(金)を締切として募集していた小児医学川野賞に1件の申込があり、応募した。2025年1月に採否結果予定である。

14) 新理事予定者会議、結果の件

新理事予定者で開催した会議の結果、追加推薦理事5名と理事長・副理事長が選出された。社員総会で報告し、承認を得ることとなる。

15) 理事長職務報告

通信理事会の発信、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

第1号議案 公益社団法人第5期(2023年10月1日～2024年9月30日)決算書類および事業報告書承認の件(和田理事・代 高橋理事長)

経常収益は97,830,322円、経常費用は85,669,336円、当期一般正味財産増減額は12,160,986円となった(2023年度は11,043,087円)。収益の増加については、会員数の増加と印税の支払いがあったことが大きな要因となった。経費は、セミナーにかかる交通費や謝金等が増加したが、活動が活発になったことを反映している。第5期決算書類および事業報告について賛成1/2以上で承認可決された。

第2号議案 国内NICU交換留学制度におけるアンケート実施への協力の件(難波理事)

通信理事会No.21で意見のあった標題についてあらためて審議する。

意識調査に関するアンケートであるが、学会が関与しているという誤解を招く可能性があるため、アンケート内の「学会」という表記を削除し、また、本学会がシステムを構築しているわけではないという説明を依頼メール文内に記載することで実施してはどうかと提案があった。

新生児科医師のみで交換留学制度を行うことが小児科医療全体に与える影響や、地方での若手医師の育成において、若手医師が他の地域に行くことで発生する弊害について考慮すると、賛成しかねるという意見があった。地域から交換留学で都市圏に行き、地域に戻らないという事象が発生しており、非常に深刻な問題と考えられる。また、新生児科がない施設では、小児科の中で新生児医療を行っているため、他の診療部門に影響を与えることが懸念される、と意見があった。

専門医研修のこともあるため、学会が関連しているような印象を与えることについては慎重に対応すべきであるとの意見もあり、修正すべき点について検討した上で継続審議とし、理事長から申請者に上記の意見があがったことを報告することとした。

難波理事より本学会主導という意味合いはなく、会員のメーリングリストを用いて情報を共有したいという考えであると説明を受けて、学会ではなく個人での情報共有として他のシステムを利用するのはどうかと意見があがった。

日本小児科学会の新生児委員会では、本学会の審議結果を待って審議する予定であることが報告された。

第3号議案 Travel Awards 2023の件(難波理事)

The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatologyへの参加を支援すべくTravel Awardsを毎年授与しているが、2022年度学会論文賞・学術奨励賞で優秀な成績を収めた会員を対象に選出を行い、国際渉外委員会にてTravel Awards 2023受賞者を内定した。

長野伸彦(日本大学小児科学系小児科学分野)

生田寿彦(兵庫県立こども病院周産期医療センター新生児内科)

藤岡一路(神戸大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター小児科)

第68回学術集会の参加費が免除され、Joint Congressで演題発表される。

第4号議案 暫定フォローアップ認定医審査料の件(高橋理事長)

2024年度第3回の理事会で現フォローアップ認定医委員会委員に審査手当を支払うことが決定した。他団体の審査料や手当を調査し、今回、委員1人あたりが254件の書類を審査していたことから、審査手当として1人あたり20,000円を今期の委員に支払うことが賛成1/2以上で承認可決された。

今後、会員が行う業務に対する支払い等を整理すべきであり、新理事体制で検討していくこととしたい。

第5号議案 「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」アーカイブ化の件
(高橋理事長)

2024年度第2回理事会で、本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」のアーカイブ化について提案があった。

他団体から発出されたガイドラインも、多くは発出後は何も対応していないのが実情である。感染症に関する対応については規定を緩和していくことは非常に難しく、また、各施設で対応が様々であり、それぞれで検討・判断する必要がある。

今後、同様の事態が発生した際の参考になるため、いつまで有効であったかを明記する、簡単には閲覧できない形にする、過去の文書を見れるサイトを構築し移動させる、と提案があり、現状の表示で第5類になった年月日および「対応は各施設に委ねる」といった説明文を感染対策予防接種委員会で作成し、次回理事会で提示することとした。

第6号議案 「第7回webセミナー」アーカイブデータ提供の件(飛艇理事)

講師の笹月桃子先生より、ご自身の研究室の教官と大学院生にも「第7回webセミナー」の動画を視聴させたいと要望があり、当日参加できるURLをお送りした。また、セミナー当日に参加できない対象者がおり、録画データの提供についても要望があった。録画データの提供について賛成1/2以上で承認可決された。なお、視聴は笹月先生の監督下で行われる。

第7号議案 こども家庭庁1か月児健診マニュアルの件(高橋理事長)

こども家庭庁で作成を進めている「1か月児健康診査マニュアル」に、研究協力機関として本学会名を掲載したいと要望があった。マニュアルの内容確認し、問題がなければ理事長判断で学会名の掲載を許可することが賛成1/2以上で承認可決された。

3. 第68回学術集会(中村会長)

2024年11月8日(金)～10日(日)、ホテルブエナビスタ(長野県松本市)

日本新生児看護学会：11月9日(土)～10日(日)

テーマ「Family centered careのこれから」

4. 第69回学術集会(高橋会長)

2025年11月13日(木)～15日(土)、パシフィコ横浜 会議センター

テーマ「激動の社会の新生児医療～未来への勇気と希望～」

日本新生児看護学会：11月14日(金)～15日(土)

テーマ「激動の社会の中の新生児看護—伝え続けること・変えていくこと—」

5. 第70回学術集会(森岡会長)

2026年11月20日(金)～22日(日)、パシフィコ横浜 ノース

6. 第71回学術集会(日下会長)

2027年11月予定

7. 各種委員会報告

1. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRATES JAPAN について

開催時期：2025年10月16日（木）～18日（土）の3日間

開催場所：ウェスタ川越（埼玉県川越市）

中国・長沙（開催時期：2025年10月11日（土）～13日（月）の3日間）との joint

テーマ：Prevention and Treatment of Prematurity-related Morbidities

講演者：Phyllis Dennery, Anup Katheria, Souvik Mithra, Peter Dargaville, Tetsuya Isayama,

Hirofumi Sawada, Josef Neu, Ju Lee Oei

2) 日台韓 Joint Congress について

会合：The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology

日時：2024年11月9日（土）（第68回学術集会2日目）

会場：ホテルブエナビスタ（長野県松本市）150名規模会場

テーマ：22～23週の管理

講演者：Ming-Chih Lin（台湾）、Ga Won Jeon（韓国）、Johan Ågren（スウェーデン）、Matthew A.

Rysavy（米国）、難波文彦（日本）

MOU 締結：San-Nan Yang（台湾）、Min Soo Park（韓国）、高橋尚人（日本）

司会：岩見裕子委員

2. 広報委員会（水野委員長）

1) 学会の公式 X にて施設紹介ならびに学会・セミナーの告知を行っている。

2) 周産期関連のセミナーについては学会ホームページに掲載し、案内をしている。

3. 病気・ケアの解説作成 WG（長谷部 WG 委員長・代 水野理事）

1) 解説文を74名の先生が執筆しており、掲載準備中である。

4. 医療安全委員会（影山委員長）

1) 第68回学術集会において、教育講演「医療機器の添付文書－その法的な重要度を考えよう－」（11月9日）を開催することが正式に決定した。

5. 診療委員会（芳本委員長）

1) 8月26日（月）に開催された「第1回小児慢性疾病委員会」に出席した。

- ・厚生労働省による小児慢性特定疾病追加申請受付についての情報提供

- ・9月2日（月）受付開始情報あり急遽、理事会 ML にて情報提供

- ・9月12日（木）追加申請要望なく本年度当学会からの申請なしと報告

6. 学術委員会（長谷川委員長・代 高橋理事長）

1) 若手新生児科医フェロシップに15名の申請があり、通信理事会で承認された。

7. 学会誌編集委員会（東海林委員長）

1) 2024年度第3回学会誌編集委員会を8月19日（月）19:00～開催

①2024年6月14日（金）に発刊した「日本新生児成育医学会雑誌36巻2号」について、閲覧数アップの施策を実施したことを報告した。

- ・目次の PDF と学会誌閲覧サイトの QR コードを添付して会員へ発刊案内。

- ・巻頭言の PDF を jpg データにして学会の公式 X に添付して案内。

- ・PDF ダウンロード (DL) を各論文単位ではなく特集単位で閲覧できるようにしたところ、特集1「栄養」は DL 79 件、特集2「ithdraw, withhold」は DL 65 件であった。

②8月24日（土）から開催された「第27回教育セミナー」で学会誌についてのアンケートを行った。

- 学会誌のPDFをDLしたことがありますか？
- 学会誌を閲覧するにあたって、こんな工夫が欲しいなどありますか？
- こんな特集企画が読みたい！

2) 2025年2月発刊「37巻1号」の特集企画について

①特集1「知っておくべき頭蓋変形の診かた：担当 東海林宏道委員長」

- リスク因子や予防の重要性：富山大学附属病院周産母子センター 吉田丈俊先生
- 頭蓋変形の診断と矯正治療の現状：あいち小児保健医療総合センター脳神経外科 加藤美穂子先生
- 頭蓋縫合早期癒合症の確定診断と治療：自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児脳神経外科 五味玲先生

②特集2「社会的ハイリスク妊娠の現状と課題：担当 松崎陽平委員」

- 周産期医療から見た社会的ハイリスク妊娠：横浜市立市民病院小児科 松崎陽平委員
- 児童相談所から見た現状と課題：北部児童相談所支援係 田中惣太郎先生
- 乳児院の現状と地域の親子支援に向けた課題：社会福祉法人真生会白百合心理・社会福祉研究所、白百合ベビーホーム 青木紀久代先生

8. 薬事委員会（落合委員長）

- 1) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼があったが該当はなかった。
- 2) 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」の募集をしたが情報はなかった。
- 3) 「医療用薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」を行ったが、情報はなかった。
- 4) 日本小児科学会薬事委員会よりケイツーN静注、ケイツーシロップ供給継続のための不採算品目再算定に関する要望について、新生児領域担当が窓口となり企業との面談と要望書作成の予定である。

9. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）

- 1) 2024年度暫定フォローアップ認定医の最終審査をweb会議で行った。申請者254名全員を委員会としては認定することとし、理事会に諮り承認を得た。
- 2) 審査を振り返り、次年度の申請までに細則に追加すべき内容を検討した。

10. 教育委員会（中西委員長）

1) 第27回教育セミナーを実施

実行委員長：寺澤大祐委員，実行委員：杉浦崇浩委員

日時：2024年8月24日（土）～8月26日（月）

会場：ホテルグランヴェール岐山（岐阜県）

参加費：会員：16,500円／非会員：33,000円

参加者：43名

次年度は、岡山県で開催予定。実行委員予定：久保田真通委員，鷺尾洋介委員。

2) 第68回学術集会

教育委員会企画ワークショップ

「意外と教えられていない？－エキスパートから学ぶ学会プレゼンテーションの極意－」

日時：2024年11月10日（日）8：20～9：50

座長：杉浦崇浩委員，中西秀彦委員長

講演1：大阪大学大学院医学系研究科小児科 北島康司先生：総論（20分）

講演2：筑波大学芸術系 田中佐代子先生：デザイン面から（20分）

講演3：岐阜県総合医療センター 寺澤大祐先生：ストーリー，語り方，前振りの回収の仕方（20分）

スライド修正の実演：アドバイスがあったスライドの修正ポイント，修正前後の違いを解説（10～20分）

- 3) 小児科医の到達目標（第8版）のドラフト版 関連領域の総覧
日本小児科学会より「小児科医の到達目標（第8版）」の総覧依頼があり、委員のメンバーで校正を行った。
11. 慢性期 iNO 保険収載 WG（中西 WG 委員長）
- 1) 急性期以降 iNO 臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビュー
- 研究担当者：加藤 晋委員によるレビュー論文投稿中
 - Kato S, et al. “Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants after 7 days of age” BMJ Open (bmjopen-2024-087740)
 - Major revision で現在、論文のリバイス提出準備中
- 2) 慢性期 iNO の本邦の NICU における実態調査アンケート案の作成と実施
- 宮田昌史委員がアンケート結果に関する論文製作中
 - 現在ドラフト第1弾が完成し、近日中に投稿予定
- いずれも投稿の際には、謝辞に学会名を記載予定である。
- 3) 第68回学術集会
薬事委員会、医療の質向上委員会共同企画、ワークショップ「新生児医療に適切な医薬品を届けるために私たちに何ができるのか」を開催。
急性期以降の iNO の適応拡大に向けた学会ワーキンググループの活動を発表予定である。
12. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG（甘利 WG 委員長・代 中西理事）
- 1) 2024年9月2日（月）第11回 WG 全体ミーティングを開催
他、WG 内の小グループごとに延べ4回の zoom ミーティングを開催。
- 2) 「第3回 NSim セミナー」に向けて
2024年11月10日（日）、第68回学術集会の3日目午前開催。
- 受講者：20名程度の若手新生児科医を想定。
 - 3時間弱で「急変対応」「気管挿管」「胸腔穿刺」「臍カテ」をローテーションで実施
- WG 委員外の指導者補佐を10名ほど募集する予定である。
レールダール メディカル, TM カンパニー株式会社, カーディナルヘルス株式会社などに協力依頼予定である。
- 3) その他
- 第68回学術集会で「NSim セミナー」の開催報告を兼ねた演題発表。
 - プログラムのマニュアル化。
 - これまで実施した3回の「NSim セミナー」を経て、ブラッシュアップした指導者用マニュアルを成果物として纏める。
13. 倫理委員会（飛弾委員長）
- 1) 第68回学術集会の倫理委員会企画「多職種ワークショップ」の準備を進めている。
- 2) 第7回 web セミナー
日 時：2024年10月11日（金）18：00～
講 師：笹月桃子先生（早稲田大学 人間科学学術院）
テーマ：「話し合いのガイドライン改訂の要点と協働意思決定の実践」
9月30日（月）時点で230名の参加申込あり。
14. 社会保険委員会（佐藤委員長・代 高橋理事長）
- 1) 令和8年度診療報酬改定に向けた意見募集を、会員および新生児医療連絡会会員に向けて実施した。
15. 医療の質向上委員会（長委員長）
- 1) サーベイランス事業
- ①「軟骨低形成症」（調査期間：2021年12月1日～2024年12月1日）

②「気管切開を要した慢性肺疾患」（調査期間：2024年4月～2026年3月31日）

2) フォローアップ事業

①「低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究」（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 河野班）が進行中

②「NICUを退院した低出生体重児の長期フォローアップに関するアンケート調査」進行中

16. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

1) CLDとPDAガイドラインの作成は進行中であり、パブリックコメントの段階へ進む。

2) 栄養のガイドライン作成メンバーを募集する予定である。近日、会員に向けて公募する。

17. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長・代 高橋理事長）

1) 本学会を代表して、日本小児科学会の日本における「RSウイルス感染症に対する抗体製剤・ワクチンの使用に関するコンセンサスガイドライン検討ワーキンググループ（委員長：森岡一朗）」にて活動し、日本小児科学会のホームページに以下が公開された。

- ・「日本におけるニルセビマブの使用に関するコンセンサスガイドライン Q&A（第2版）」
- ・「全乳児に投与し、ニルセビマブの定期予防接種化の要望書」

2) パリビズマブと同様に、ニルセビマブは小児科外来診療料に含まれず、小児科外来診療料算定施設でも出来高算定が可能となった。

18. 用語委員会（細野委員長）

1) 日本小児科学会の到達目標に頭蓋変形用語を掲載してもらえるよう提出した。

19. 災害対策委員会（徳久委員長）

特になし

20. 学会将来構想委員会（日下委員長）

特になし

21. 利益相反委員会（廣間委員長）

特になし

22. 総務委員会（和田委員長）

特になし

23. 調査研究審査委員会（飛弾委員長）

特になし

24. 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

特になし

25. 産科医療補償制度委員会（細野委員長）

特になし

26. 英文誌WG（森岡WG長）

特になし

8. その他

- ・2024年度の理事選挙を経て、推薦理事の選出方法について、理事長・副理事長・総務委員会委員長、監事で見直すこととした。
- ・次年度の理事会で「名誉会員」の規定を見直すこととした。
- ・次年度の委員会メンバーが決まった委員会は、社員総会後に現在使用している委員会のメーリングリストは削除するため、残す必要のある委員会は事務局まで連絡する。